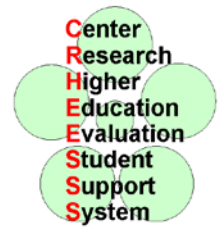


週刊センターニュース No.274



第274号（2009年8月31日）毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 第243回共同学習会のご案内 ○●○

日時：9月3日（木）15:00-16:30 ※開催時間が通常と異なりますので、ご注意ください。

会場：角間キャンパス 総合教育1号館2階会議室

企画：堀井 祐介（大学教育開発・支援センター）

報告者：堀井 祐介（大学教育開発・支援センター）

テーマ：「質保証」で議論されていること

趣旨：「大学教育への問いとその将来を考える－質保証の全体像を探る－」（主催：国立教育政策研究所、共催：朝日新聞社、7月25日開催）および「内部質保証システムの充実をめざしたアカデミック・リソースの活用－個性ある大学づくりのために－」（平成21年度大学評価フォーラム、主催：大学評価・学位授与機構、8月3日開催）に参加し、入手した資料をもとに、最近、高等教育関連でよく使われている「質保証」という言葉についてどのような視点から議論されているのか、「質保証」は大学に何を求めているのかについて報告させていただく。

○●○ IDE大学協会東海支部「IDE大学セミナー」参加報告 ○●○

8月21日（金）開催された標記セミナーに参加した。テーマは、「認証評価への対応と課題」であり、その趣旨は、すでに認証評価を受審した大学の経験をもとに、評価結果の活用方法、次期への課題などについて情報共有するというものであった。プログラムは、東京大学名誉教授天野郁夫氏による基調講演から始まり、栗本英和氏（名古屋大学評価企画室副室長）、中嶋清実氏（豊田工業高等専門学校学生主事（副校長））、難波輝吉氏（名城大学大学教育開発センター課長）、坪井和男氏（中部大学大学教育研究センター長）の4氏による話題提供、そして最後に全体でのディスカッションという構成であった。本稿では、その中から、天野氏の講演、栗本氏の報告について簡単に紹介させていただく。

天野氏は、日本での認証評価の仕組み、大学設置および設置基準の歴史などに触れた後、

- 2004年に評価の仕組みが導入されたが、それまでいわゆるPDCAサイクル（Plan, Do, Check, Act）のうち、Doしか行ってきていない大学は、評価活動に関しては、まだまだ経験不足であり、単に報告書を出すための評価活動になっている。評価活動本来の目的であるCheckやActといったフィードバックを行うためには、IR（Institutional Research、欧米の大学教育研究センターや大学評価センターで見られる、学習成果・教育効果をデータ化し、分析するとともに、客観的で系統的な方法により、組織の評価に提供する部門）が必要であるが、それも無い。
- 現在、学会会議を中心に動いている、専門分野別評価についても、大学人がきちんと対応しない

と、行政中心に検討されている OECD の AHELO のような形で進むと、学問の自治等の点で大きな問題である。日本の学会は学閥支配の場、オープンなレフリー制度としての査読が根付かない、後継者養成の観点での活動となり閉鎖的である

- 日本の官僚が優秀すぎて、最初に精緻なものを作るため、なかなか変えるという勇気が出てこない。評価の仕組みは、常に変化、進化していかなければいけない。そのためには、大学人が自らが評価主体であるとの意識を高め、意見を出していかないといけない。

と述べられた。

栗本氏の報告のポイントは以下の 5 点であった。

- 国立大学は法人化により「税金を使う団体」(PDCA サイクルの Do だけ行っていた) から「税金を貰う団体」(貰った税金に対して自己責任で PDCA サイクルを回す) へと変わった。
- 質保証活動(評価活動)は業務横断的であり、名古屋大学では、法人評価対応活動と機関別認証評価対応活動をつなぐ形で総合企画室と評価企画室が置かれており、両室が実践協働体(Community of Practice)となり、動脈としての従来業務を補う静脈的役割を果たしている。両室の活動により、学内での各種経験等が単なる集合知ではなく協働知となる。
- 質保証活動は、対症療法としてばらばらに対応するのではなく、方針を定めて進めて行くべきであり、そうすることで全体としての負荷軽減につながる。例えば、データ収集についても、何でもかんでも集めるのではなく、目的を定めてフィードバックまで視野に入れた評価活動につながるものを最初に決定してから集める方が効率的。
- 質保証活動は、課題を可視化する手段であり、PDCA サイクルではなく、CAPDo(Check から始める健康診断的活動)の方が望ましい。
- 質保証、質向上の仕組みとしては、人を育てる視点(職員の専門性養成)が必要。

両氏の発言を聞き、認証評価制度導入から 5 年が経ち、次期サイクルに向けての制度改正などが議論されている中で、大学および大学人の評価への関わり方が今後ますます重要になるという認識を新たにした。法人評価、機関別認証評価の次期サイクルに向けて、評価活動を特別なものではなく、評価それ自体が大学および大学人が備えるべき機能として位置づけ、大学を舞台とする全ての活動に当然のように組み込まれるように、大学として評価関連活動をより効率的に支援する体制整備が必要なのではないだろうか。

(文責 評価システム研究部門 堀井祐介)

○●○ FD・SD 企画の情報提供のお願い ○●○

当センターでは、学内はもちろん学外で開催されます FD・SD に関するシンポジウム・セミナー等についても情報収集を行っておりますので、関連する情報提供をお願いします。学内ポータル内の「FD カレンダー」「SD カレンダー」(学内開催、学外開催、センター教員担当の 3 種類。本年度 10 月まで参照可能。随時更新)に掲載させていただきます。当センター宛 (info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp) にご連絡いただきますようお願いいたします。

また各カレンダーは、ポータルでログイン後、時間割の下にある「その他情報」-[時間割] をクリックすると、2 つめの項目に【FD・SD】があり、その中の「アカンサス FD」「アカンサス SD」のそれぞれにカレンダーを所収しています。是非ご活用下さい。